

お彼岸 ―こちらを照らし出す世界―

ウクライナ戦争が始まって以来、この国がとても危険な方向に向かっているように感じる。兵器を大量に買い、その資金のためにあらゆる福祉の予算が削られる現状に、誰も何も感じていないのだろうか。

浄土（彼岸）からの呼びかけである“念仏パスポート”を皆本当に受け取ろうとしているのだろうか。“念仏パスポート”に申請は必要なく、既にすべてのいのちに渡されていて、受け取りさえすればいい。しかし、私たちにとって「ただ受け取る」ということが難しいともいえる。念仏は浄土へ往くための手段ではなく、浄土からのほたらきである。

現在は、浄土のはたらきを何も感じることなく、そして自ら考えることをしない「思考停止」と「分断」に吞まれながら、自分の置かれている状況に気付かない恐ろしさがこの国だけでなく世界を覆い隠しているように感じる。

しかし、この地獄、餓鬼、畜生が溢れる世界（「此岸」）こそ、一切の衆生を平等に漏れなく、排除せず救おうという世界（「彼岸」）のはたらきを感じる場所である。つまり、「彼岸」が「此岸」のありようをはつきりと照らし出し、また「私」のありようを確かに照らし出すのである。

「彼岸」から“念仏パスポート”を受け取った者、念仏の光を受け止めた者の証は、必ず「此岸」において、その人の行動となって表出することとなる。あなたと共に救われようとする行動となるのである。

（北條義信）